

各種アンケートを踏まえた改善策(重点項目)

1. 生活文化学科

1) 日商簿記・ITパスポートの取得を目指すカリキュラムとサポート体制を強化

オフィスキャリアコースに関する項目の評価が低いため、オフィスキャリアコースの資格取得に向けたサポートの在り方を検討し、より多くの資格を取得し、学生生活を満足していくものにしたい。特に修文学院高等学校からの要望のある日商簿記とITパスポートの取得を目指すカリキュラムとサポート体制を強化する。資格試験の受験に際して、専任教員が申し込みのサポートを行い、受験状況、合格状況を把握する。試験直前には科目担当教員による対策講座を実施し合格へとつなげたい。

2) 社会人として求められる知識を修得するカリキュラムを強化

卒業後アンケートにおいて、就職先における自己評価や満足度が、アンケートの評価に影響している。生活文化学科は幼児教育と比べて離職率が高いことから、卒業後を意識したカリキュラムの編成が必要と考える。

そこで、基礎教養科目を1年次履修分と2年次履修分に分け、2年次に卒業後の働き方や生活を支えることを目的とした科目を開講する。2年次へ移行する科目は、ジェンダー論、経済と社会、心理学(新規開講)とする。

2. 幼児教育学科

1) 仕事の段取り、計画を立てる力

保育の計画に欠かせない保育指導案の作成は、複数の授業科目で学修している。また、保育実習、幼稚園教育実習での経験が、役立っていると考えられる。今後も現在の授業内容を継続しながら、現場を見据えた学修が実際にお役に立っていることを授業内で告知する。

2) コンピューターを使いこなす技術

保育現場では文書作成、計算に留まらず、SNSや個別アプリなどを駆使した園運営が浸透しつつある。現在の学生はデジタル世代であり、コンピューターやスマートフォンを利用したICTへの拒否感は薄いと考えられる。一方、メールの送受信や基本的な文書作成が十分に行えない学生も存在する。学生個々のスキルに配慮した丁寧な情報処理能力の習得ができるよう、ポータルサイトやグーグルクラスルームの利用を今後も継続していく。また、実習記録や指導案作成にコンピューターを用いることができるよう、様式を作成する。

3) プレゼンテーション能力

聞き手が理解できるよう情報を提供する相手が、保育職の場合は園職員と乳幼児である。学生に対して、模擬保育や実習など実践的な学びの機会を大切にすることを意識づける。また、授業での発表や意見を述べる機会を通してプレゼンテーション能力の向上を目指す。

4) 大学祭やスポーツ大会

今後は実施形態を工夫しながら2日間開催が進められ、充実した学祭になることが期待できる。スポーツ大会については、幼児教育学科学生の参加率は高く、イベン

ト開催の目的はある程度達成できている。イベントへの参加はクラスやグループ単位で楽しみながら目的達成を目指すため、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高める機会でもある。学生が積極的にイベントに参加するよう担任を中心に促し、支援していく。

5) 歴史や伝統がある

本学の歴史や伝統が学生に十分理解されていないことが考えられる。オリエンテーションの機会などを利用し、学生が本学について理解を深め、多くの卒業生が社会で活躍していることを伝える。

6) 活力がある

元気よく、活動的な学生が多いことは学科の特性でもある。日々の学生の様子を学科教員間で共有し、今後も学生たちが大いに活動的な日々を送ることができるよう努めていく。